

はじめに

平成23年6月、小笠原諸島はユネスコの世界自然遺産に登録されることとなった。貴重な自然と豊かな島民生活を共存させていくことが、今までに増して小笠原に暮らす者としての双肩にのしかかってくるであろう。そういう課題に挑戦できる未来の島民（小笠原にかかわる人間）を育てていくのが小笠原中学校の使命である。

I 目指す学校像

知・徳・体の基盤をつくり、伸びしろのある骨太な生徒を育てる学校

【教育目標】

よく学び、考え、行動する人
やさしくたくましい人
社会の一員として貢献できる人

校 訓
紳士たれ
淑女たれ

【めざす生徒像】

教育はある意味で、一人一人の社会的意識を育てていくところに、その役割の一つがあると考えている。親や教師が生徒たちに対して、その教育的努力を日常的に続けられない限り、小笠原が抱える課題に対して生徒なりに責任をもって賢明に対処していこうとする態度や意識は育っていかない。「地域が、家庭が」と第三者的に言うことは易しい。問題は「だからどうするか」である。その解決のために立ち上がっていくことのできる人間は、次にあげるような人間像（生徒像）をめざすことから育っていくのではないかと考える。

- 1 生きること自体に喜びを感じて生活できる人間（生徒）→やさしくたくましい人
明るい生徒、感動する生徒、自律性のある生徒、しなやかな心をもった生徒
- 2 他人や自然と共栄できる人間（生徒）→社会の一員として貢献できる人
思いやりのある生徒、他人の嫌がることを進んでやる生徒、人をまとめる生徒
公共心のある生徒、協調性のある生徒、他人の心の痛みを感じる生徒
- 3 自己と環境を常に切り開いていける人間（生徒）→よく学び、考え、行動する人
自分の身を守る生徒、どんな状況にも対応できる生徒、未知なものに関心を示し探求する生徒、工夫する生徒、理想をもてる生徒

【めざす教師像】

教育改革論議のかまびすしさの中で共通に訴えられていることは、教師の資質向上という一点である。生徒の前に立っている以上、島民からの期待や願望を受けて立つのが教師としての責任である。一日一日の教育活動が生徒たちにとっては人生を決定づける大切な日々ともなっていく。このことを思うと、教師としての生きがいを感じるのみではなく、よりよい教師であろうとする姿勢を自らの人生に決定づけなければならない。そこで、次の三点を挙げておく。

- 1 傲慢とエゴを排すために自己を磨いていく教師
- 2 多様な現実を凝視しつつ、教育技術を高めていく教師
- 3 保護者、同僚、あらゆる人間と調和のとれる教師

【めざす学校環境】

学校環境は建物をはじめとする「施設」、学校運営上必要な「設備」、生徒たちの学習上必要な「設備」や教材・教具と「教師集団」を主な要素とする。これらの要素の中で最も重要視されなければならないのは「教師集団」である。一人一人の教師の人格、思想、専門性、教育への情熱、実践力、健康といった個人の要素が結集された強固な教師集団の団結がなければならない。生徒たちにとって、よりよい学校環境であると言われるためには、まず教師一人一人が自分の立場や責任において真剣に生徒たちに関わっていこうとする態度と実践が基本的に学校の各部分において見られなければならない。また、施設や設備、教材・教具を生かすのも生かさないのも教師の力量にかかっていることを知らなければならない。めざす学校環境として次の三点を挙げる。

- 1 教育効果を高めるための施設、設備、教材・教具
教師の卓越した先見性と企画性、ゆきとどいた管理、効果的に機能させる力量と実践力
- 2 綿密に計画された教育実践
目標を意識した実践、行事と授業時数のバランス、計画的な予算の執行
- 3 地域の教育センターとしての学校
学校を変えていくために努力する教師集団、家庭・地域社会との連携

II めざす学校像に近づけるために

- 1 めざす生徒像にかかわって
 - ① 基本的な知識を確実に習得させるとともにそれを有効に活用し、生徒自身が五感を使って物事を学んでいく姿勢を育てる。
 - ② 授業や行事の中で意図的に壁を作って、それを乗り越えさせる体験をさせる。
 - ③ 学級活動や生徒会活動の中で、自分たちの課題を自分たちで解決できる自治能力を高める。
 - ④ 自分で考え判断し、主体的に物事にかかわっていく態度を育成する。
 - ⑤ 病気やけが、さまざまな災害から自分の身を守る態度と能力を育成する。
 - ⑥ 自分の意志で学ぶのだという意識と態度を育成する。
- 2 めざす教師像にかかわって
 - ① 教師自身の思い上がりや先入観、うぬぼれや自己中心的な考え方、傲慢や不遜、エゴイズムを徹底的に排除し、自己の人格、人間性を鍛えていく不断の作業に勇気をもって取り組んでいく。
 - ② 生徒との信頼関係を基盤として学習の動機づけを行い、教師自身のひたむきな研さんの姿勢で生徒や保護者の信頼を得ていく。
 - ③ 個性を生かしつつ、大局的視野から学級経営、学校経営を活力に満ちた状態で行っていける教師を目指す。
- 3 めざす学校環境にかかわって
 - ① 設備や教材を購入したまま放置したり、故障したまま放置しておかない。また、ハード・ソフト面で弱い部分はお互いに研修し、意識改革していく。
 - ② 絶えず教育目標を意識した教育活動を展開する。
 - ③ 各種行事と生徒の実態に即して、授業時数の確保とバランスをとっていく。
 - ④ 予算の執行については各担当が納得して適切に配分し、学校環境の活性化につなげていく。
 - ⑤ 「地域の教育力」を高めていく先導的な役割をもった学校環境づくりに努めていく。
 - ⑥ 同僚性・協働性・革新性・開放性に満ちた優れた教師文化を生成し、地域・東京都・全国に発信

していく。

Ⅲ 今年度やりたいこと、やっておきたいこと

1 教育活動の目標と方策

本校の最重点課題は学力向上（授業力向上）である。

Key word : breakthrough（難関や壁の突破、行き詰まりからの進展）

・学ぶ意欲の喚起 ・学習習慣の確立 ・自分の学びに自信を

- ① 1学期中に校長と全生徒との面談を実施し、個々の生徒の意欲や希望を確認し、学校生活への意欲を喚起する。
- ② 個々の学習習慣を確立するための進路学習部を中心とした組織的な取組を継続する。
- ③ 学力向上と授業力の向上は表裏一体である。→年2回の研究授業を通じ個々の授業力の向上を図る。これは保護者へも公開する。
- ④ キャリア教育の新たな展開→なぜ学ぶのかを意識させる全体計画・指導計画の策定と実践、小・高との連携、修学旅行中の企業見学・大学見学等、25歳をイメージさせるキャリア教育。
- ⑤ 道徳教育の新たな展開→チャレンジ精神・人とのつながり・判断力や選択能力を重視する。
- ⑥ 言語活動の充実→各教科・領域での言語活動の位置づけを明確にし、表現力・コミュニケーション能力を高める
- ⑦ 朝読書の充実→引き続き全教員で取り組み、読書習慣をつけるとともに静かで落ち着いた朝のスタートをきる。
- ⑧ 支援教育の充実→SCの積極的な活用、小・高との連携、卒業後を見据えた指導と情報収集、外部機関との連携、校内委員会の機能を高める
- ⑨ 総合的な学習の時間の充実→本来の目的である探究できる授業の創造
- ⑩ 防災教育と保健・安全指導の徹底→津波・地震、交通安全、健康、食育への対応、自分の身は自分で守るという態度・能力の育成
- ⑪ 組織的な生活指導の進展→清潔できちんとした服装・正しい言葉づかい、場をわきまえた行動等、あたりまえのことがあたりまえにできる学校を継続させるために組織的に取り組む。

2 重点目標と方策

① 授業規律の確立

授業遅刻の記入、始め終わりのきちんとした挨拶、チャイムとともに始まりチャイムとともに終わる授業を全教員が勢いをもって実践する。

② 学習習慣の確立

個々の学習習慣を確立するために進路学習部を中心に組織的に取り組む。進路学習だよりの定期的な発行により啓発を図る。

③ 道徳教育とキャリア教育の新たな展開

学ぶための動機づけや学習習慣の確立、困難なことに立ち向かうための基盤として、道徳教育とキャリア教育をとらえなおし、全教育活動を通して展開する。

④ 防災教育の充実

自分のいのちは自分で守るという態度を育てる。危機管理マニュアルをもとに、計画的に防災教育を実施し、近海地震、東南海・南海地震に伴う津波から身を守る行動がとれるようにする。

⑤ 人権教育の推進

生徒の人格を尊重する趣旨から呼び捨てにせず敬称を付けて呼ぶとともに教員・生徒の言語環境を整えていく。**併せて校訓の趣旨を徹底する。**

⑥ 組織的、予防的な生活指導

学習習慣の確立、全教育活動を通じて行う道徳教育やキャリア教育、人権教育を通じて予防的な生活指導を行うとともに、生活指導主任を中心とした組織的な生活指導を進展させる。

⑦ 小学校と連携した芝生の維持管理

環境教育とともに芝生の日を中心に生徒に芝の育成・管理に関心をもたせる。

⑧ OJT体制の確立と充実

若手教員育成が急務である。危機感をもって取り組む。

⑨ コスト意識の向上

学校で使用する電気、ガス、水道、紙、その他は村の財源で賄われていることを絶えず意識しておく。資源利用の節減と環境等へ配慮する意識もあわせて高めていく。**遅くとも 21 時には退勤する。**

◎対人関係に関して

人を差別なく尊重し心遣いは公平に。人に気を遣わせない。強くない。

- 1 挨拶をされたら必ず挨拶を返す。欠礼は大事を招くことがある。
- 2 共用している部屋（職員室とか）に入る時は、中に人がいるいないに関わらず「こんにちは」とか「おはようございます」といった挨拶を大きな声ですべき。
- 3 職員室を離れる場合は所在を明らかに
- 4 人から頼まれたこと、提出物は最優先でやる。頼んだ人は頼んだその時から報告を待っている。それを後回しにして自分の仕事を優先するようでは良き組織人にはなれない。
- 5 遅刻を繰り返す人はだらしがないでは済まされない。相手や全体への配慮を欠き、自分は別という不遜な態度と見られる。（傾向性が強い。必ずぎりぎりに来る人、いて欲しいときにいない人・・・）
- 6 人が話しているところに割って入らない。会話を注意深く聞いていて一区切りついたところで「お話中失礼ですが・・・」と切り出す。
- 7 人に話しかける時は、相手が聞きやすい環境、状況にあるかどうかを考えるのがお互いのためである。
- 8 電話中は静かにする。聞き取れないこともある。
- 9 名前を呼ばれたら相手が聞こえるように返事をする。
- 10 やたらおしゃべりな人というのは困ったものである。
- 11 電話等で外部の人と接するときには、身内の人間には先生をつけない。「〇〇先生は、いらっしゃいません」ではなく「〇〇は席をはずしております」。伝言を依頼されたら、復唱し「〇〇が承りました」と付け加える。
- 12 職員住宅の使用については原則を順守すること。村民を招き入れるとか島外からの近親者以外の者を宿泊させることは厳に慎むこと。